

◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あり、第24週から連続で報告があります。本年の累積報告数は24例で、10歳代が12例、20歳代が6例、30歳代が3例、50歳代が2例、70歳代が1例となっています。血清型別では、O157が21例、O26が1例、O111が1例、型不明が1例となっています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、0.07(5例)です。また、本市において今シーズン初めてのAH3型(香港型)が検出されています。
- ・ 百日咳の報告が3例(9歳1例、20歳以上2例)あります。本年の累積報告数は24例で、年齢階級別報告数は、0～9歳が13例、10歳以上が11例です。

◆ 今週のトピックス:<突発性発しん>

突発性発しんの定点当たり報告数は、0.66(27例)で、本年で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 6例(肺結核 5例, 肺外結核 なし, 潜在性結核感染者 1例), (喀痰塗抹陽性 2例)
【1月以降の累積報告数 215例(肺結核 138例, 肺外結核 54例, 潜在性結核感染者 23例), (喀痰塗抹陽性 59例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 24例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0.07	5
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.17	89
	② 手足口病	1.24	51
	③ ヘルパンギーナ	1.10	45
	④ 流行性耳下腺炎	0.90	37
	⑤ 水痘	0.66	27
	⑤ 突発性発しん	0.66	27
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

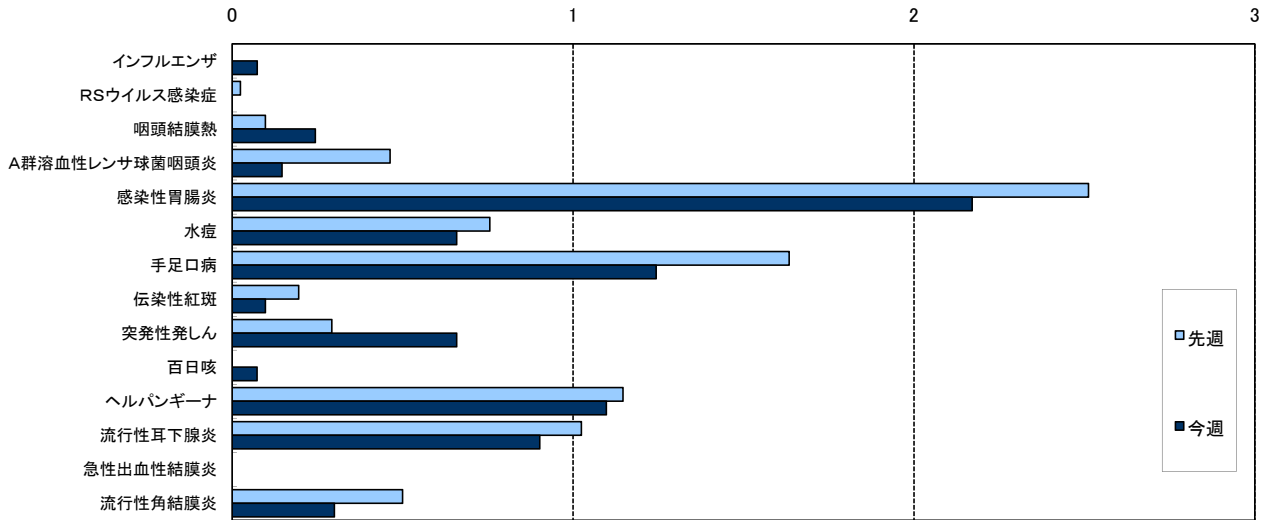
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<突発性発しん>

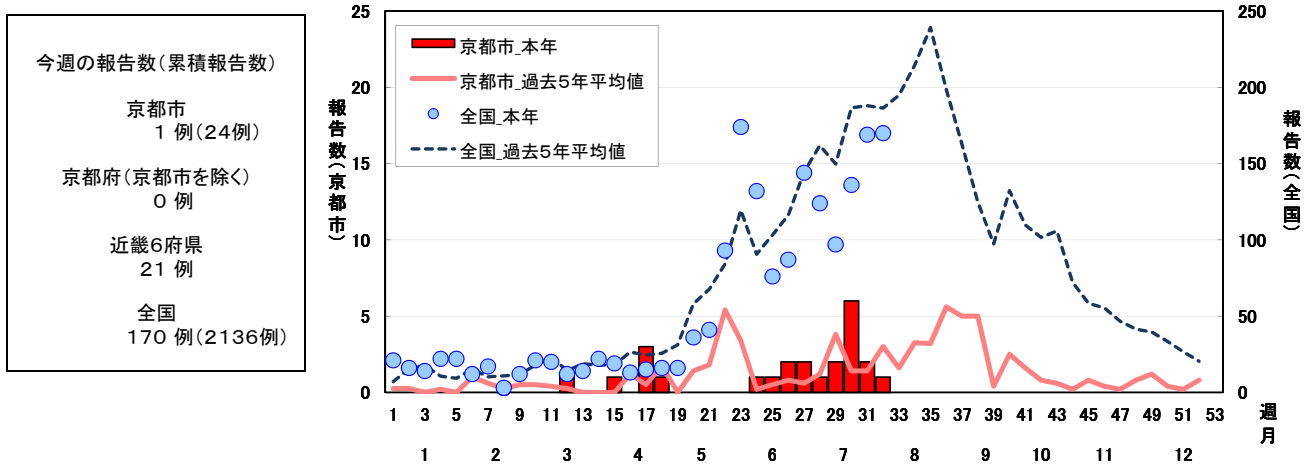
(注)京都市のデータは、平成22年8月19日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第32週)と先週(第31週)の定点当たり報告数の比較

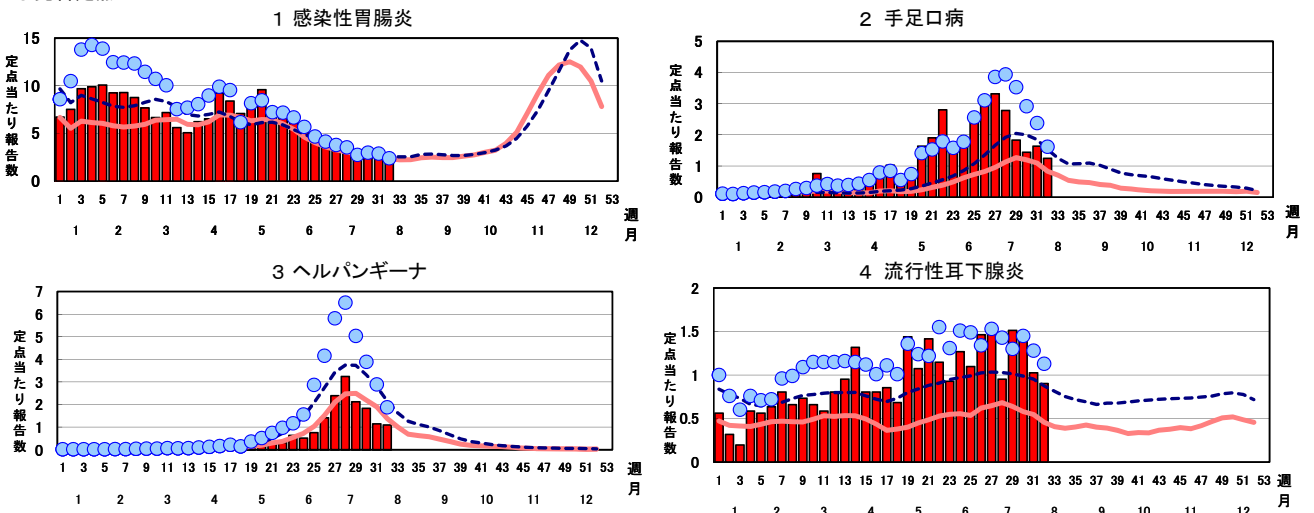


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

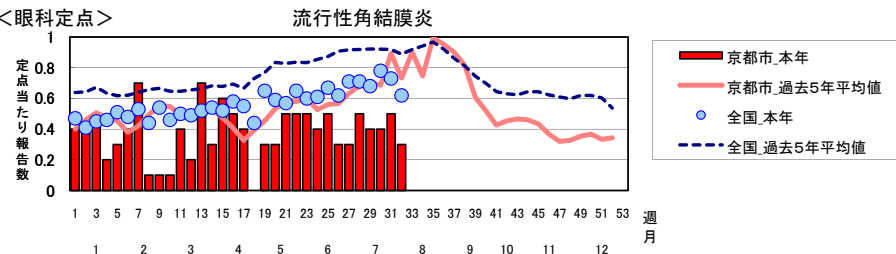


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



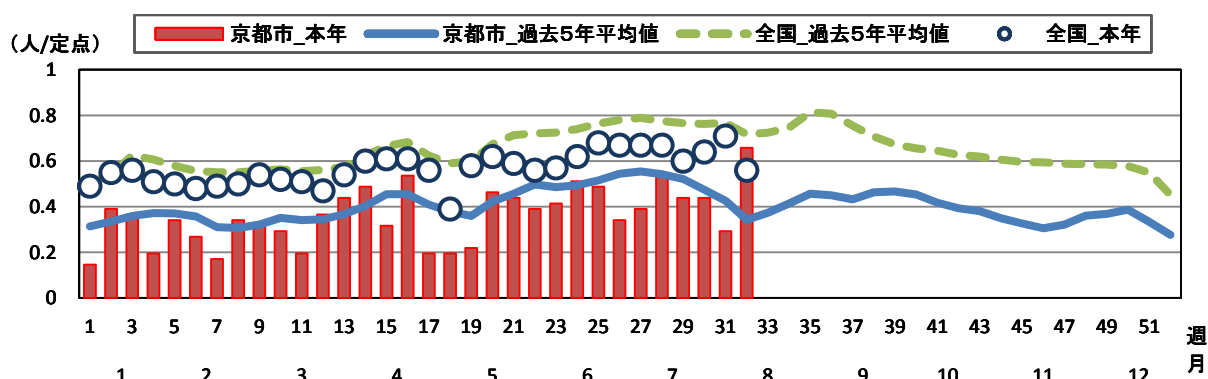
第32週(8月9日～8月15日)トピックス: <突発性発しん>

定点当たり報告数は0.66(27例)で、過去5年平均値(0.34)を上回っており、本年で最も多くなっています。年齢階級別にみると、1歳が63.0%(17例)と最も多く、1歳以下で96.3%を占めています。

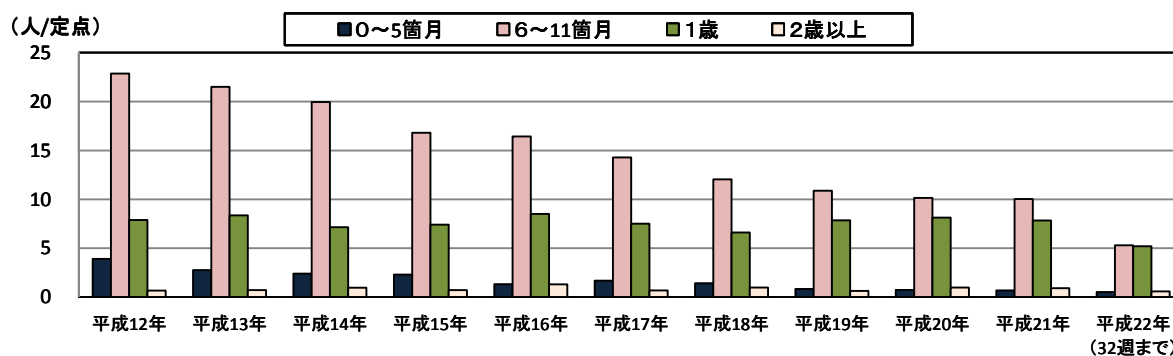
平成12年からの年齢階級別定点当たり報告数の推移をみると、0～5箇月、6～11箇月の報告数は、平成19年まで減少していますが、1歳の定点当たり報告数は7人前後の状態推移しています。

第1週から第32週までの累積定点当たり報告数の推移をみると、平成19年まで減少を続け、それ以降横ばいの状態が続いています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移(平成12年～22年第32週)



第1週から第32週までの累積定点当たり報告数の年別推移(平成12年～平成22年)

